

# 鯉城

鯉城同窓会

## 第74号 号外

鯉城同窓会に多大な貢献をされた福岡駿吉さん（昭和24年⑤卒）と井上義國さん（昭和23年卒）が亡くなられた。それぞれの足跡をたどりながら、心からの哀悼と感謝の意を捧げたい。

### 同窓会への愛を貫く 逝去当日まで細かい配慮

同窓会役員として長年貢献した福岡駿吉さん（昭和24年⑤卒）7月17日ご逝去。89歳。

（昭和43年卒 会報編集委員会・大石一朗）

福岡さんのご自宅に、何度電話をおかけしたことだろう。



二木会で、同期生らとテーブルを囲む福岡さん（左から2人目）

「○○さんの追悼文は誰に頼めば？」「鯉城の夕」の歌は校歌だったのですか」。一中に絡むテーマを中心に、しよっちゅう相談に乗ってもらった。

同窓会の「生き字引」であるには理由がある。同窓会副会長、参与を20年以上務められた。かわった以上は手を抜かない。すべてに全力投球。それが積み重なって膨大な知識の蓄積になった。後輩としてこれを利用しない手はない。

10年にわたってコンピを組んだ八木忠士元会長は「温厚な人柄の一方、筋を通す厳しい一面も」と評し「二木会、一中慰霊祭などの行事はもちろん、母校の入学式、体育祭などにもこまめに参加してくださった」と感

謝する。同窓会館の建設や、奨学財団の設立、サポーター制度の実現、鯉城人物録の充実の面でも助けられた、という。

取り組みを見続けた同窓会の久保木敬子前事務局長は、二木会の当番幹事への指導ぶりを挙げながら「同窓会への愛情、母校への思いが本場に深い方でした」と、人となりを懐かしむ。

福岡さんは、経済情報誌を発行する会社の社長を務められたほか、浄土真宗の信仰を大切に

### 鯉城関西の創設に力 財界・近畿県人会でも活躍

関西財界で長年にわたり活躍し、鯉城関西同窓会創設の発起人でもあった井上義國顧問が6月20日永眠。90歳。

（昭和41年卒 鯉城関西同窓会会長・福原哲晃）

井上先輩は、昭和6年生まれ。白鳥小学校、広島一中を23年に卒業。京都大学法学部から28年に大阪金属工業（現ダイキン工

された。趣味のゴルフは、亡くなる3日前まで楽しんだ。マルチの才能や持ち味を、存分に発揮された人生だったのだろう。

ここでエピソードを一つ。私の手元にA4判の封筒が届いたのは7月19日だった。差出人は福岡さん。中には福岡さんの同期で結成する「有終会」の会報と、手書きの手紙が同封されていた。手紙の内容をくぐらして言えば「編集作業は孤独でしょんどのいよなあ。あんたも頑張れよ」の激励文。消印を見ると、ご逝去当日の17日だった。

命尽きる直前まで、福岡さんのお気持ちには同窓会や仲間、母校在校生を含む後輩たちに向けていたに違いない。



故 井上義國さん

業）に入社。副社長、副会長を歴任され、平成17年に顧問を退任。関西経済同友会代表幹事、関西経済連合会常任理事などの

要職を務められるとともに、アジア太平洋地域の発展に人材育成が不可欠として設立に関わられた公益財団法人「太平洋人材交流センター（APEX）」の理事長、会長を約20年間務められました。そして地方分権を推進するために、関西広域連合の設立にも尽力され、平成22年の第4回本会総会では、「地方分権と関西の活性化」をテーマにご講演をいただき大変感銘を受けました。

広島一中3年生の昭和20年8月6日、学徒動員先の東洋工業（現マツダ）で被ばくされ、白鳥町の自宅に帰る時の体験を綴った『あの日』前後―広島原爆忌―を平成12年に上梓されました。挿絵も自ら筆を執られ、英訳本はアメリカにも寄贈されています。

井上顧問が平成11年に近畿広島県人会会長に就任された際、関西に鯉城同窓会がないことが話題となり、副会長の南維三・本会顧問、副幹事長の大津巧・本会顧問とが相談され、15年の県人会総会で岡田茂・鯉城東京同窓会会長（当時、故人）と巻幡展男・本会顧問らが再会し意気投合されて、19年の創立に突き進んだと、鯉城関西10周年記念誌に述べられています。